

Paris

先端サロンの最新情報をいち早くお届け！

そのための色の選択に細く興味をひかれたという。「店里がすぐ見えるのが、油松と違う。早く仕上がり、そして、その効果がつかう間である。どうしてか好きなんだ。それは、人生のはかなさ」も褒めているから」

「ロマンでは、2タイプのカラーをしている。一つは完全なフィット（種類）カラー。ヘッドと同じで、染色用のハーブの色をあ選んで選せて、80分から1時間という長い時間、「マスクのように」カタブラスム方法で施術する。

しかし、この方法だけでは、オキシダハなしの、ブリーチも30パーセント以上の白髪についても不可。

2つめは、半フィットカラー。オーガニックな色葉とアンモニアの入っていない非常に弱いオキシダを混ぜ合わせたもので、4から5レベル上げられる。それも、髪や頭皮を傷めることなく、自然に近い状態で。

プロントの専門が多い中、ロマンはカラウンや深い栗色を専門にしている。なぜかというと、「カラーの色合いの微妙さと困難度を進しているから。難関色の問題など、無理以外の色が浮かんでしましきつことである。それを、コントロールする」というカラーリストの仕事だから」

そうしながら、個性溢れる、本人の望むカラーをつくり出していくロマンのカラーリストとしての意気込みが伝わってくる。

1年前から、五一に似ているコンセプトを持つ「オーガニックなコスメのメイカーニュミー（ローランベル）」と名付けて併せて、

「ロマンカラーナー」はヘアのため、「ニュミー」は皮膚のため、「トゥミー」は医療のために。

サロ内の中には、ヒューティールーム、スパの個室を設け、昨年にはオリジナルのプロダクツもつくった。アロマテラピーも強化していく。ナチュラルな商品。

シリコンも石油化学の産物である成分もまったく使っていない。バイオロジックで、彼が「植物の効果」と名付けた6種類のエッセンシャルオイルを、季りと使用のそれに合わせて選せて使ふる。このように分けたのは、エッセンシャルオイルが、非常に難解で酸化しやすいので、その努力をできるだけ保つためだ。こうしたコンセプトは、オープンしてから2年間は、なかなか適応してくれなかった。ところが、1993年は、「バイオ、オーガニック」ブームの波に乗り、医療にも取り上げられ機知的な人々が出てきた。80年代の無駄乾燥とした、冷たく広いサロンに、不満を持ち出した女性たちは、自分の一部といふことを守るために、この二つの壁を「オーロラ」と名づけ、

入口。カーテンが暖かい草花柄を出している

セット室



まるで友人の家に遊びに行ったかのような雰囲気。わざと堅陥し過ぎないままの状態を演出している

Romain colore ロマンカラー

文◎青田小夜里 審査◎ジャンルイ・クロンベル
foto SAYORI OKADA photo JEAN-LUC DE COULONDEL

自然派カラーとヘアケア専門の エコなサロン



向こうに座るはサロンの主？

